

文武館文庫

久慈郡大子町大子558（大子町立だいが小学校南側）

JR常陸大子駅から北東へ約350メートル、大子町立だいが小学校の校庭の南側に一つの蔵が建っています。これが「文武館文庫」です。

水戸藩では、江戸時代の幕末に藩政改革を行い、文教政策の一環として領内各地に郷校を建設する計画を進めました。郷校は、藩校弘道館が藩士の子弟を教育するのに対して、地方の庶民教育の施設として建てられもので、水戸藩内



には15校あったといわれています。大子郷校もその一つで、だいが小学校のあたりにあった大子陣屋が廃止されると、その敷地や建物は学館あるいは医学館と称して活用され、この文庫はその付属施設として、嘉永3年（1850）春に建設されたものです。そして、安政3年（1856）8月、大子郷校文武館として大子地方の庶民教育の拠点となり正式に開館しました。これ以後、医学書の講釈に加え、武術や砲術の修練も行われ、文武兼備の学館としてその機能を発揮しました。当時の文庫には約4600冊の和書や漢籍が収められていたと伝えられていますが、現在はその行方は不明になっています。

大子郷校文武館は、明治4年（1871）7月の廃藩置県で水戸藩がなくなり、廃校となりました。敷地、建物は翌年の学制発布に伴い、小学校として利用されてきましたが、文庫は今なお現存して、県内唯一の貴重なものとなっています。

建坪は19.87平方メートル（6坪）で、切妻造、杉の角材を井籠積みにし、内側は角材がそのまま仕上げ材となり、外側は土壁を塗った二階建土蔵造になっています。入口の戸は、三重の引戸になっており、外戸は土壁漆喰、中戸は板戸、内戸は板の格子戸になっています。

昭和50年（1975）9月12日、大子町から史跡に指定され、昭和60年（1985）には解体修理が施され、今に至っています。

茨城教育 第八七九号

令和七年十一月二十五日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和一 三五六一二

電話 〇二九一三二一―二七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所